

2024年9月7日配布

小嶋 久之

第355回 山口西田読書会(2024年7月13日開催分)の Protokol

1. テキスト

第五講 新カント学派

48項 1行目 「前節に述べたる如く十九世紀の後半には」から

52項 15行目 「従って自然科学というのも客観的実在を或る立場から組立てたものに過ぎない。」まで

2. キーセンテンス

51項・3行目～4行目

真理は斯くなければならぬといふ當爲(Sollen) によつて成立するのである。

3. 問い

真理は當爲(Sollen) によつて成立するとされていますが、真・善・美 については、内容は異なりますが目指すところは「斯くあらねばならぬ」という當為ではないのかと、私は考えます。

キーセンテンスの記述は、真理に限定していると解しました。真理だけなのは、何故でしょうか。

※行為という言葉には、馴染みがありますが、當為という言葉を書くこと自体少なく、これまで理解ができなかったので、この箇所を取り上げました。

小室直樹氏の著書には、「日本人というのは、……ザイン(sein ～だ)とゾレルン(sollen ～べきだ)の区別もない。」とあり、日本人で哲学に詳しくない人にとって共通の傾向なのかでしょうか。